

## 認知症キッズサポーター養成講座（小・中学校）

各務原市では、平成 27 年度より各学校のご協力のもと市内すべての小学校 5 年生と中学校 2 年生の生徒さんを対象に、認知症キッズサポーター養成講座を行っています。地域包括支援センター つつじ苑では、担当地区の稲羽西小学校、稲羽東小学校、稲羽中学校の生徒さんを対象に、認知症キッズサポーター養成講座を行いました。講座では、認知症とはどんな病気かを説明し認知症の方と接する時に気をつけた方がよい点や認知症の方ご本人の気持ちなどをお伝えしました。

## 稲羽中学校 2 年生（11 月 15 日）



中学校では、認知症の方ご本人からのメッセージを紹介し、「もし自分が認知症になったら…」をテーマにどの様に接してほしいかやどんなまちになってほしいかなどをグループワークにて話し合いました。

～グループワークで挙げられた意見を一部ご紹介します～

Q1.大人になったあなたがもし認知症になったら、身近な人にはどのように接してほしいですか。

A1.いつもと同じように、普段と変わらない接し方をして欲しい。笑顔で、明るく特別扱いをしないで、接してほしい。

Q2.大人になったあなたがもし認知症になったら、私たちが住むこのまちは、どんなまちになってほしいですか。

A2.みんなが認知症という病気を理解して助け合えるまち。思いやりがあって、明るいまち。

## 稲羽西小学校・稲羽東小学校 5 年生

小学校では、『覚えられない・忘れてしまう』ことについて、イメージしやすいようにイラストや模型を使い説明をしました。その上で、認知症のおばあさんと小学生の僕とのやりとりを小学生側の視点で描いた絵本の読み聞かせを行い、絵本で印象に残った場面やその場面で何を感じたか将来身近な人が認知症になったらどう接したいかをグループワークにて話し合いました。

## 稲羽西小学校 5年生 (9月12日)



## 稲羽東小学校 5年生 (12月6日)



講座後のアンケートでは「認知症の人がいたら、優しくゆっくり目を見て話しをしたい」や「家族に認知症の人がいたらいつも通り笑顔で接したい」など、“身近な人が認知症になったら普通に接したい”という意見が多く挙げられました。地域の皆さんが認知症という病気を理解し、認知症の方を優しく見守ることで認知症になっても住み慣れた地域で生活できる様に、今後も認知症サポーター養成講座およびキッズサポーター養成講座を行っていきます。